

情報Ⅰ Ⅰ学期期末テスト 解説

Ⅰ 情報の定義やその性質とメディア（知識・技能：8点，思考・判断・表現：10点／合計18点）

問Ⅰ ①～④：知識技能，⑤～⑧：思考・判断・表現。各1点。

- ① データ，情報，知識の関係に関する知識を問う問題。易。
- ② 情報の個別性に関する知識を問う問題。易。
- ③ 情報の残存性に関する知識を問う問題。情報の残存性とは，「一度作られた情報が完全に消えることのない性質」であり，「一度消えてしまった情報は決して復元できない」という記述に矛盾。易。
- ④ 情報の信憑性を高めるために行うクロスチェックという用語を確認する知識問題。複数の情報源を比較・照合する行為は「ダブルチェック」ではなく「クロスチェック」であるため誤り。普通。
- ⑤ 表現メディアの特徴を思考する問題。難しいことを学ぶような大学の教科書を想像してみると，画像や音声を使った教材よりも，文字で学ぶことが多いことが想像しやすい。説明書なども，文字の方が詳細に記述されていることが多い。易。
- ⑥ 表現メディアの特徴をもとに，最適な表現メディアを判断する問題。文字で情報を詳細に記述できるものの，わかりやすさの点では画像が優位であり，色や形，非言語情報などは画像や音声の方が伝えやすい。例えば，初富の制服の色，初富の校章は画像が伝わりやすく，音楽を伝える際には文字よりも音声の方が伝わりやすい。台詞にのせた感情も音声の方が伝わりやすい。易。
- ⑦ 情報メディアの発展に関して，どのように進化したかを思考する問題。易。
- ⑧ 情報源に関する問題。情報の目的性や一次情報／二次情報の知識や信憑性・信頼性など多くの知識を結びつけて判断する問題。やや難。

問2 ①～④：思考・判断・表現。各1点。

- ① 授業で話す内容（情報）が手元にあるノート等に複製されているため，複製性と関連が深い。たしかに情報が記録されて残るようになるが，このノート等がどうなるかは不明（捨てるかもしれない）。したがって，授業で話す内容（情報）がノート等に写し取っている内容の文であり，残存性ではなく複製性が適切。やや難。
- ② 消したはずの内容が消えずに残っているため，残存性と関連が深い。普通。
- ③ 「『なぜか』多くの生徒が知っている」のは，高辻先生の意図と異なると推測できる（少数の生徒が知っていることは予想できたが，多数の生徒が知っていることは予想していない）。伝播性と関連が深い。普通。
- ④ 先生のPCにある情報が生徒のPCにも存在できるようにしているため，複製性と関連が深い。一つの情報源（先生のPC）が生徒のPCへと複製されているだけであり，その情報が広まっていくわけではない。したがって，伝播性ではなく複製性が適切。やや難。

問3 思考・判断・表現。合計6点。

表現メディアの特徴をもとに思考し，緊急地震速報として最適なメディアを判断して，その根拠を表現する問題。①～④のどれか一つを選び，それをもとに説明すればよい。採点基準は，表現メディアの特徴またはほかの表現メディアとの比較が述べられているか（3点），因果関係（原因と結果），どのようなことが可能になるかが明示されているか（3点）である。この問題は理由を聞いているわけではなく，説明を求めている。難。

- ① 音声はスマホがかばんの中でも聞こえるが，文字や画像は見ないと気づけないため，音声が有効である。

音声は，スマートフォンがかばんの中に入っていて画面が見えない状況でも，音が耳に届くことで情報を伝えられる。一方で，文字や画像は画面を見る必要があるため，視覚に頼るメディアでは気づけないことがある。このように，音声は視線を向けていなくても情報が届くという特徴があるため，地震のような緊急時に確実に利用者へ知らせることができる。

- ② 文字や画像は目を開けないと見えないが，音声は睡眠中でも耳に届くため，素早く地震に気づける。

睡眠中は目を閉じているため，文字や画像による情報は気づきにくい。一方で音声は，目を開けていなくても耳に届き，大きな音で目を覚ますことができる。つまり，音声は視覚に依存しないという特徴を持つため，睡眠中でも確実に地震の発生を知らせる手段として適している。

- ③ 音声はその場にいる周囲の人にも情報が届くが，文字は本人しか見られないため，音声の方が効果的。

音声は，一人の端末からでもその場にいる複数の人に情報を同時に伝えることができる。これに対し，文字は個人にしか伝わらないメディアであり，画面を見た本人しか情報を得られない。したがって，音声を使うことでその場にいる他の人にも迅速に危険を知らせ，避難などの行動につなげることができる。

- ④ 音声は鳴った瞬間に地震を察知できるが，文字や画像は理解に時間がかかるため，音声が優れている。

音声は，鳴った瞬間に「緊急事態である」と直感的に認識できる特徴がある。文字や動画の場合は，内容を読んだり見たりして理解するまでに数秒の時間がかかる。そのため，音声は他のメディアよりも素早く情報を伝えられ，早期の避難行動を促すことができる。

問1 ①～⑦：知識・技能，⑧～⑩：思考・判断・表現。各1点。

- ① 個人情報保護法の対象とプライバシー権により守られる情報の違いに関する知識問題。他人に知られたくない情報（プライバシー）を公開して問われるのはプライバシー権の侵害による民法上の不法行為。個人情報保護法に違反するのは，個人情報取扱事業者が個人情報（生存する個人に関する情報であり氏名・生年月日等を含む特定の個人を識別できる情報，または個人識別符号）の扱いが個人情報保護法に則っていない場合である。よって，この記述は誤り。やや難。
- ② 個人情報の定義に関する知識問題。個人情報となるのは，(i)生存する個人に関する情報，(ii)氏名・生年月日等を含む特定の個人を識別できる情報であるため，(i)テストの答案(ii)学年・組・出席番号・氏名を含んだ他者と識別可能な情報となるため，テストの答案そのものが個人情報となる。氏名・生年月日等を含む情報であるため，氏名・生年月日等そのものではなく，そのような記述を含み，特定の個人を識別できる生存する個人に関する情報が個人情報となる。したがって，この記述は誤り。難。
- ③ 人の姿形の権利に関する知識問題。すべての国民に肖像権はあるが，これは肖像（本人の姿形）の撮影・利用を拒む権利であって財産的な価値を保護する権利ではない。有名人の肖像の財産的な価値を保護する権利はパブリシティ権であるため，この記述は誤り。易。
- ④ 知的財産に関する知識問題。知的財産基本法は知的財産を保護する目的もあるが，社会の発展のために利用を推奨する側面もある（著作権の例外が存在するし，産業財産権が保護される期限は有限である）。それゆえ，この記述は誤り。普通。
- ⑤ 産業財産権が方式主義であることを知っているかを問う知識問題。産業財産権が認められるのは出願や登録後（方式主義）であるため，この記述は誤り。普通。
- ⑥ 著作権が無方式主義であることを知っているかを問う知識問題。著作権が認められるのは創作した時点（無方式主義）であるため，この記述は正しい。普通。
- ⑦ 著作物の利用に関する知識問題。著作物を利用する場合に著作権者から許諾する意思を得られれば，著作権の侵害にはならず著作物を利用してよい。よってこの記述は正しい。易。
- ⑧ 具体的な状況において，プライバシーが保護されるかどうかを思考し，判断する問題。子どもを含むすべての人が私生活上の個人的な情報をむやみに公開されない，管理する権利（プライバシー権）を持つ。無断で子どもの SNS を見ることは，その子どもが持つ個人的な情報を管理する権利を保護者が侵害していると考えられるため，この記述は正しい。（親は「子の利益のため」に監護・教育する権利義務を持つ（情報 I 範囲外の知識）が，これは利益のための必要最小限度で子どもの権利を制限することができるのみである。通常，無断で SNS を盗み見るのはこの範囲を超える。通常出ない場合は，子の生命・身体の重大な危険が迫っている場合等である。）普通。
- ⑨ 著作権の例外規定（引用）に関する知識をもとに，具体的な状況において引用が適切かどうかを思考し，判断する問題。「宿題をなくすべきだ」という主張のために同じ結論となるだけの文章を引いているのみの文書となり，新しい主張がなく，引用部分を取り除くとこの主張の根拠がなくなり成り立たない。つまり，引用部分でない本文にこの文書の主張はないといえ，自分の文書と引用した文

書の主従関係が不明確（むしろ引用した文書が主といえる状態）であり適切とはいえないため，誤り。やや難。

- ⑩ 著作権に関する知識をもとに，具体的な創作物が著作権により保護されるかを思考し，判断する問題。音楽（楽音）も歌詞も「思想・感情」を表現した創作物であるため，著作権を生み出す著作物である。したがって，この記述は誤り。易。

問2 ①～④：知識・技能。各1点。

産業財産権に関する基本的な知識を問う問題。

- ① スマートフォンの形状や模様，色彩などデザインに関する権利であるため，最も関連が深いのは意匠権となる。易。
- ② 自社製品であることや信用保持のためのマークは，いわゆるロゴマークであり，最も関連が深いのは商標権である。易。
- ③ リチウムイオン電池に関する発明は比較的高度な技術といえるため，最も関連が深いのは特許権である。易。
- ④ アンテナの構造に関する考案は，すでに存在するアンテナという発明を改善したに過ぎない技術考案であり，発明ほど高度な技術的アイデアとはいえず，実用新案権が最も関連が深い。易。

問3 思考・判断・表現。3点。

クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの説明を読み，それをもとに同時に組み合わせられない組み合わせを判断する問題。ND：改変禁止は改変を禁止しているが，SA：継承は改変を認めているため矛盾する。この組み合わせは不可能。よって組み合わせることができないのは ND と SA。普通。

問4 知識・技能。2点。

著作者人格権の公表権に関する知識問題。公表権が保護する公表とは何かを問う問題である。ア.は友人の著作物の公開ではなく，自身の著作物（感想）を公開したのみであるため，友人の公表権を侵害しているとはいえず，空欄には不適。イ.は友人の著作物を無断で公開しているため，公表権の侵害となり空欄に適する。ウ.は友人の著作物ではなく友人の顔（肖像）を公開しているため，公表権の侵害ではなく肖像権の侵害となるため空欄には不適。エ.は友人の著作物ではなく秘密（プライバシー）を公開しているため，公表権の侵害ではなくプライバシー権の侵害となるため空欄には不適。

問1 ①～⑤：知識・技能。各1点。

- ① 情報の歴史を問う知識問題。狩猟時代や農耕社会でも口頭で天候の情報等を共有していたため、誤り。易。
- ② 新しい情報社会（Society 5.0）に関する知識を問う問題。新しい情報社会は現実のデータを活用して自動的に動く「データ駆動型社会」を実現した社会である。コンピュータの発展やインターネットやスマートフォンの利用による社会や産業構造の変革があったのは情報社会である。よって誤り。普通。
- ③ 注目される情報技術に関する知識問題。IoT 技術はモノがネットにつながり、相互に情報をやりとりする技術である。仮想空間でなんらかの体験を行うのはVR 技術である（Virtual:（名目上または厳密にはそうではないが）実質上の、事実上の ウィズダム英和辞典 第4版）。この記述はVR 技術の説明であるため、誤り。普通。
- ④ 注目される情報技術に関する知識問題。この記述は正しい。普通。
- ⑤ 情報社会でのコミュニケーションに関する知識問題。インターネットは完全な匿名ではなく、物理空間と同様モラル（どのような考え方でどのような態度で利用するか）が必要である。したがって、この記述は誤り。普通。

問2 ①～③：知識・技能。各1点。

- ① AI とは何かを問う基本的な知識問題。この記述は AI（人工知能）の説明である。AI の A が Artificial（人工の，人造の，人工的な ウィズダム英和辞典 第4版），I が Intelligence（知能，知性 ウィズダム英和辞典 第4版）である（ウィズダム英和辞典 第4版の intelligence に関する記述には「人間の[一般的]知能」も intelligence の使用例としてあげられており、これによると、「human [general] *intelligence*」と呼ぶらしい）。易。
- ② IoTとは何かを問う基本的な知識問題。この記述はIoT（モノのインターネット）の説明である。IoT の I が Internet，o が of，T が Things である。易。
- ③ AR 技術とは何かを問う基本的な知識問題。A は Augmented（増加[増大]された ウィズダム英和辞典 第4版）であり、その使用例としてウィズダム英和辞典 第4版には「augmented reality」があげられており、その意味は「拡張現実（現実環境をコンピュータで拡張する技術；（略）AR）」である。なお、R は Reality（現実，事実，実在 ウィズダム英和辞典 第4版）である。

問3 思考・判断・表現。合計6点。

データ駆動型社会の特徴と IoT 技術・CPS 技術がどのようにデータ駆動型社会に貢献するか思考し、この社会の懸念される側面を思考して、技術と監視社会が結びつく理由を判断し、表現する問題。最難。

IoT 技術は身の回りのモノがネット接続し、センサー等で取得した現実のデータをサイバー空間に取り込む技術である。CPS 技術は、取得した現実のデータを解釈・分析し、現実世界に影響を与える技術の総称である。CPS 技術の中に IoT 技術が含まれているといえ、CPS 技術と組み合わせた IoT 技術により、現実の様子の多くを取得することが可能になり、ある個人の生活を監視することも容易になる。このことが監視社会と懸念される理由である。採点基準は、データ駆動型社会で利用される CPS 技術や IoT 技術の特徴が述べられているか（3点）、監視社会につながる理由が述べられているか（3点）である。

問4 ①～⑥：思考・判断・表現。各2点。

社会で使われている情報システムに関して、どのような情報の共有（コミュニケーション）が行われているかを思考し、判断する問題。難。

- ① 店舗から本社には当日の販売数・在庫数が共有される。店舗のみが当日の販売数・在庫数のデータを取得できることから判断できる。
- ② 本社から製造工場には製造指示・生産計画が共有される。①により得たデータを解釈・分析することで、翌日の商品の必要数がわかる。この情報は本社に存在し、必要な商品を得るためには製造してもらわなければならない。商品の製造が可能なのは製造工場であるため、本社から製造工場に共有される情報が何かを判断できる。
- ③ 本社から配送業者には配送依頼・配送ルート表が共有される。どの店舗にどれだけの商品が必要かの情報は①により本社が持っており、製造工場では製造指示をもとに商品の製造を行っている。必要な商品を必要な店舗に届ける作業は配送業者が担うため、どこへどれだけの商品をどのようにして配送すればよいかという情報を配送業者に共有する必要がある。したがって、本社から配送業者に共有される情報は配送依頼・配送ルート表である。
- ④ 製造工場から配送業者には出荷準備通知・積載内容が共有される。商品を製造し出荷する（荷物を積み出す）準備ができたかどうかという情報は製造工場が持っている。この情報を必要とするのは、商品を積み出す先である配送業者であることから判断できる。
- ⑤ 配送業者から製造工場には集荷完了・状況報告が共有される。集荷（荷物を集める作業）が完了し、現在どのような状況かを共有する先は、本社が製造工場のどちらかまたは両方であると推測できる。しかし、問題には配送業者から本社に情報を共有している矢印は存在しない。このことからここで共有する情報が何かを判断できる。
- ⑥ 配送業者から店舗には納品予定が共有される。本社はどの店舗にどれだけの商品が必要かの情報を持っており、その情報を共有された配送業者も知っている。本社から店舗への情報を共有している矢印は存在しないため、配送業者から店舗へと納品予定を共有していると判断できる。

問1 ①～⑩：知識・技能。各1点。

- ① コミュニケーションに関する基本的な知識問題。文書とスライドには差があり、文書によるコミュニケーションは間接コミュニケーションであり、非同期コミュニケーションである。間接コミュニケーションであるため、非言語情報は伝えられず、文書に記入された内容のみでコミュニケーションができる。また、非同期コミュニケーションであるため、文書に予想される質問などが発生しないよう詳細に記入することが求められる。それに対してスライドでは、プレゼンテーションに利用されるため、直接コミュニケーションであり、同期コミュニケーションである。直接コミュニケーションであるため、スライド以外からも多くの非言語情報を伝達できる。さらに、同期コミュニケーションであるため、情報に疑問点があればすぐに質問できる。したがって、文書では詳細に記述できる文字が適しており、スライドでは詳細に記述する必要がないため直感的な理解を誘う図や画像などを効果的に扱うとよいとされている。したがって、この記述は正しい。普通。
- ② 情報の信頼性という言葉の意味を問う基本的な知識問題。情報の信頼性は、情報の伝達過程にて精度や正確さが損なわれていない度合いのことである。引用元が把握できれば、直接引用元から情報を得ることができ、伝達経路による問題を無視できる。これにより、伝達過程での間違いを把握することが可能になる。したがって、この記述は正しい。普通。
- ③ メディアリテラシーとは何かを問う基本的な知識問題。メディアリテラシーは、効果的にコミュニケーションを行う能力が含まれており、表現メディア・伝達メディア・情報メディアの特性を考慮することで効果的にコミュニケーションを行いやすくなる。したがって、この記述は正しい。易。
- ④ メディアリテラシーとは何かを問う基本的な知識問題。メディアリテラシーはメディアからの情報を主体的に読み解き、客観的に評価する能力が含まれている。大人から聞いた情報でも、それを疑うことは主体的に読み解き、客観的に評価しようとするにつながる。さらに、インターネットや書籍などで調査を行うことはメディアにアクセスする行為である。この行為も、メディアリテラシーと関連が深い。よって、この記述は正しい。やや易。
- ⑤ ユーザインタフェースという言葉の意味を問う基本的な知識問題。初富の Web サイトには使いづらい点がある。例えば、バスに関する情報を見つけるのに時間がかかるし、コース選択の図をわかりづらいと感じる人がいる。このように初富の Web サイトはユーザビリティが低い部分が多く存在する。一方この記述では、ユーザインタフェースが低いと書かれている。ユーザインタフェースは利用者が見たり触れたりする部分（情報の表示形式や操作感）のことであり、言葉の使い方を誤っている。したがって、この記述は誤り。普通。
- ⑥ Web アクセシビリティという言葉の意味を問う基本的な知識問題。初富の Web サイトには画像に代替テキストを設定している Web ページが存在する。視覚障がい者が Web サイトを利用できるようにするための努力と考えられるため、当該 Web サイトを利用できるかを示す度合いである Web アクセシビリティを高める努力をしていると考えられるため、この記述は正しい。普通。
- ⑦ 情報バリアフリーという言葉の意味を問う基本的な知識問題。ピクトグラムは、たしかに言語の壁をなくす効果があるものの、ピクトグラムの設計段階からできる限り多くの人が情報を得やすくするよ

うな取り組みの結果であるため、障がい者や高齢者などが感じる障壁をなくすという情報バリアフリーとは結びつかない。むしろ、ピクトグラムはユニバーサルデザインという概念と結びつく。したがって、この記述は誤り。普通。

- ⑧ ユニバーサルデザインという言葉の意味を問う基本的な知識問題。筆談でコミュニケーションする必要がある場合という、一部の人が口頭でのコミュニケーションに障壁を感じた場合にのみ使われる機能は、ユニバーサルデザインによる設計というより情報バリアフリーである。口頭でのコミュニケーションという障壁をなくす取り組みであるからである。よって、この記述は誤り。普通。
- ⑨ 情報デザインの基本的な態度を問う知識問題。自分が見やすいと感じたとしても、他の人が見やすいと感じるとは限らない。例えば視力による差や色覚による差などが考えられる。そのため、自己評価だけでは評価できない部分が存在するため、相互評価や外部評価は、情報をわかりやすく扱いやすくするのに役立つ。よって、この記述は誤り。普通。
- ⑩ アクセシビリティという言葉の意味を問う基本問題。内容が読み取れないということは、その人はスライドを利用できないということとなり、これはアクセシビリティが低いといえる。したがって、この記述は正しい。

問2 ①～③：知識・技能。各1点。

- ① ユーザビリティという概念を知っているかを問う知識問題。見た目をよくするという目的では、かわいいフォントを使うことが適している場合があるものの、使いづらくなってしまったことを指摘された例。この記述は使いやすさの度合いを表すユーザビリティと最も関連が深い。普通。
- ② ユーザインタフェースという言葉を知っているかを問う知識問題。初期のコンピュータの主流な情報表示形式と現代のコンピュータの主流な情報表示形式（GUI）、昔からある（2000年代より前からある Put that there など）ものの、近年さらに開発が進められているような NUI（Natural User Interface）に関する記述である。これは、ユーザインタフェースに最も関連が深い。やや易。
- ③ ユニバーサルデザインという言葉を知っているかを問う知識問題。ホットケーキにバターやジャムを塗りたい場合、通常であれば容器の蓋を開け、バターナイフ等を用いて塗り広げる。サラダにドレッシングをかける場合は、ドレッシングの蓋を開けサラダにかける。それに対し、パキッテを利用すれば、蓋を開ける操作がなくなるため両手を使う必要はなく、できる限り多くの人が使いやすいようになっている。もちろん、使いやすさの変化に関する文であるため、ユーザビリティと関連もあるものの、「片手でも容易に」と記述されているため、ユニバーサルデザインと最も関連が深い。普通。

問3 思考・判断・表現。6点。

ユニバーサルデザインではない社会によって、情報アクセシビリティが低いままであり、取り残される人が生まれてしまう出来事に関して、問題を感じるであろう人を設定した具体的な状況で問題を思考し、その問題がどのような特徴により生まれるかを判断し、表現する問題。やや難。

聴覚障がい者は、表現メディアに音声という表現メディアによる情報を聞き取ることが難しい。それゆえ、音声のみでコミュニケーションをする場合、伝えたい情報が伝わりづらくなる。画面表示があれば視覚による情報取得が可能であったものの、画面表示を消したことにより音声によるコミュニケーションのみとなってしまった。この状態では、聴覚障がい者は情報を得られずアクセシビリティが低いという問題がある。これを改善するためには情報取得の手段を多様にすることが求められる。

採点基準は、「聞こえない」など、問題の原因が述べられているか(3点)、「情報を受け取れない」など発生する問題が述べられているか(3点)である。難。

問4 ①～④：思考・判断・表現。各2点。

LATCH 法の説明を読解し、その情報をもとに初富の Web サイトの情報デザインを判断する問題。

- ① Web サイト・Web ページに関して、部活動紹介の画像を見ながらどのような用語が適切かを判断する問題。部活紹介の Web ページは、一つの画面に表示される一つの文書であり、Web サイトは Web ページ全体の集合のことである。よって、部活動紹介のページ一つに当てはまるのは Web ページ。普通。
- ② 実際の Web ページを読解し、どのようにして LATCH 法が使用されているかを判断する問題。部活動紹介ページは、運動部と文化部というカテゴリーによって分類されているため、整理の基準として当てはまるのはカテゴリー。階層でない理由は、数値的な変化を基準にしているわけではないからである。普通。
- ③ Web サイト・Web ページに関して、短い文章からどのような用語が適切かを判断する問題。初富の③をいろいろ見ているとあり、一つのものを見ているのではなく複数のものを見ていることがわかるため、Web ページの集合を指す Web サイトが適切。普通。
- ④ 情報の整理・分類方法の基準を説明した文章を読解し、実際に整理されたデータがどのような基準で整理されているかを判断する問題。運動部・文化部という整理は、場所ではなくアルファベットでもなく時刻でもない。大小や高低など数値的な変化でもないため階層による分類でもない。運動部と文化部という分類では、カテゴリーで区別されていることがわかる。普通。

5

問1 ①～⑤：知識・技能。各1点。

- ① パスワードに関する基本的知識を問う問題。パスワードは推測されづらいパスワードにすることが望ましい。これにより辞書攻撃などに強くなるため、この記述は誤り。普通。
- ② パスワードの管理や攻撃手法に関する基本的知識を問う問題。パスワードの桁数を増やすことで、指数的に文字の組み合わせ(あり得るパスワード)の総数が増加し、総当たり攻撃にかかる時間も指数的に増加する。よってこの記述は正しい。普通。
- ③ パスワードの管理に関する基本的知識を問う問題。パスワードをほかの人に教えると、そこから漏洩するリスクがある。本人しか知らない状態を保つのが基本である。したがって、この記述は誤り。普通。
- ④ パスワードに関する基本的知識を問う問題。パスワードは、人が覚える必要があり他人に知られないよう管理する必要がある、盗まれることもあるなど欠点も多いため、欠点が全くない個人認証技術とは言えない。この記述は誤り。普通。
- ⑤ パスワードの攻撃手法に関する基本的知識を問う問題。辞書攻撃は、パスワードによく使われる単語(文字列)のリスト(辞書)を使って攻撃する手法である。入力可能文字の一部のみを辞書によって選別するため、この記述は誤り。普通。

問2 ①～⑤：知識・技能。各1点。

- ① 個人認証技術に関する基本的知識を問う問題。パスワードによる認証は、その人が知っている情報により行うため、知識情報による認証である。普通。
- ② 個人認証技術に関する基本的知識を問う問題。ワンタイムパスワードによる認証は、スマートフォンに送られる文字列により認証するため、スマートフォンの所持が前提とされる。したがって、この認証方法は所持情報による認証である。普通。
- ③ 個人認証技術に関する基本的知識を問う問題。指紋による認証は、本人であることそのものを示す指紋という身体の特徴を用いている。よって、これは生体情報による認証である。普通。
- ④ 個人認証技術に関する基本的知識を問う問題。IC カードによる認証は、IC カードという物理的な持ち物により認証する手法である。したがって、所持情報による認証技術である。普通。
- ⑤ 個人認証技術に関する基本的知識を問う問題。鍵による認証は、鍵という物理的な持ち物により認証する手法である。したがって、所持情報による認証技術である。普通。